

寒峰 烏帽子山

剣山系から祖谷溪谷とはさんだ北側に連なる祖谷山系。
この一帯は矢筈・烏帽子風景林となっており、矢筈山～石堂山～白滝山～寒峰にまたがる。烏帽子山は旧東祖谷と西祖谷にまたがり、烏帽子の形の姿が遠くからでも見定めることができる。
江戸期の文献にもこの山名が登場していることから、人々の暮らしと長くかかわりを持ち、祖谷山系を代表する山岳の一つでもある。



寒峰
1604.6m
西寒峰へ

こちも峠道
昔の人はとにか
自分の足で歩いた。

昔は茅場や山焼きが
行なわれ、今でも寒峰
山頂は樹木がない。

寒峰は「さみね」とも呼ばれる。
樹木のない殺風景という人し
ているが、遠目にも美しい峰だ。
名前も個性的で「孤高の山」が
かこい。

寒峰頂稜部は一面の
ササとススキの原。
冴えわたる眺望が
最高に気持ちいい。

やと来ることが
できた!!

寒峰はフクジュソウが有名。
縁起のよい花で、エンレイソウ
フキソウとともに「祖谷の
三瑞草」に数えられている。

平家落人が通った山といわれ
麓の栗枝産には安徳天皇の
前御地と伝えられている。

木漏れ日
あふれる林

カエデ林

ヒノキ林

バイケイソウを徳島では
昔は「ドス」と呼ばれていた。
バイケイソウは鹿が食べない。



日本三奇橋の一つ、かすら橋の
材料であるシラカズラは
寒峰の山に多く自生している。
貴重な文化財を支えている
大切な山だ。

今とまると300年ほど昔にユダヤ教が
成立し、後にイスラエル人がパレスチナに王国を築き
「ソロモン神殿」を建て、聖櫃（アーク）を安置した。
ソロモンの死後、BC586年バビロニアの王により、神殿
は破壊され、アークは行方不明となり、なんと四国剣山に
ソロモンの秘宝が眠っているという。
四国ソロモンの遺蹟にめぐると、剣山の西
祖谷は耳、おなけ「イヤ」の位置にあたる。
剣山は天の川に作られた「うしじま」であり、剣山が
行なわれる神事の神輿は「契約の聖櫃
アーク」に酷似しているといわれる（「うしじま」）

南には 剣山～三嶺～西熊～天狗尾。

西祖谷と東祖谷の
境となる尾根

寒峰から遠くは
石鎚山系まで
よく見える。

矢筈～石堂方面
よく見える

烏帽子 1.0
寒峰 3.0
モミ林

笠原

展望抜群

この向きの登り
は、こうキツイ

急登

モミ

グサ林

最低鞍部

ミズナラ

鎖

落禿

樹林

ススキと笠原

モミ疎林

ススキの原が広がる
遠くに 剣山～次郎谷
祖谷の家々

落合峠の雰囲気
好きだなあ。
フォントも味があって
山麓をくもしている。

落合峠は阿波加茂・祖谷に通じる
唯一の文化の交流と生活道であった。
また、西日本一と言われるススキの名所
としても有名である。
峠に鎮座する大師は文政年間、
落合集落の人々の総意として、
峠越しの交通の安全と人々の幸せを
見守っている。（石碑の一文）

落合集落は東祖谷のほぼ中央で、
急斜面にほりつくように建つ
古民家や急傾斜地の畑、石垣の
続く里道。
祖谷の風土の伝統が残された
秘境の集落。



落合峠
1520M

矢筈
避難所
峠大師

カエデやシロモジ、ナミズナ
などなど、葉っぱは99種
夕陽の形に見とれる。
秋になると、光合成をやめ
ると夕陽に色づき、葉を
落とし、春になると、
新しい葉っぱも展いて、
光をいっぱい受け入れて、
年々命を刻みこむ。

烏帽子山と遠く
近く見上げなが
ら、峠を越えて
いくことだろう。

祖谷連山を
高いところから
一望。

烏帽子と前烏帽子の間は
わずか1kmだが、中間に
深い鞍部があり、75ふと
てあった。

落合峠の西に烏帽子の
名前のとおり、姿で立ち
上がる山だ。

断崖
深い谷と
高い空

高度感ばっく
とほばに立つ
グンズンある

烏帽子山
1669.9m

鞍部

グサ
モミ林